

「地域医療を考える」座談会

メディカルヒルズ郡山

新たなまちづくりへ

一般財団法人脳神経疾患研究所(附属総合南東北病院)などで行う共同事業者は昨年1月、旧農業試験場跡地(郡山市富田町)を取得し、令和9年度の開設を目指す新病院建替え移転プロジェクトをスタートさせた。

郡山市が掲げる「メディカルヒルズ郡山基本構想2.0」では、この土地を含む市街化調整区域で、医療機器関連産業分野を中心に産業集積拠点の形成を目指しており、総合南東北病院の新築移転などで具現化され、新たなまちづくりが進められる。昨年10月には、地域全体のまちづくり推進を目的とした「メディカルヒルズ郡山まちづくり協議会」も発足した。

まちづくりにおける新病院や施設などに期待される役割などに関係者が意見を交わした。(文中敬称略)

地域住民が安心できる環境整備と情報発信



福井 邦顕氏

行政と民間が力を合わせたインフラ整備を



渋谷 重二氏

医療とまちづくりの相乗効果に期待



河内 勉氏

司会



三吉 梨香さん

出席者(順不同)

脳神経疾患研究所 理事長 渡邊 一夫氏
総合南東北病院 院長 寺西 寧氏
江東微生物研究所 取締役 エヌジェイアイ 代表取締役 橋本 弘幸氏

【メディカルヒルズ郡山まちづくり協議会】

会長 福井 邦顕氏(ゼノアックホールディングス代表取締役社長)
副会長 渋谷 重二氏(郡山地区商工会広域協議会 会長)
副会長 河内 勉氏(富田町第3区 区長)

【司会】ふくしまFMアナウンサー 三吉 梨香さん

医療が地域経済を支える時代へ

【司会】総合南東北病院の新病院建設については、地域の皆さんや、郡山医師会をはじめとする県内医師会、商工関係団体、各町内会などから強い要望があったそうですね。

渡邊 新型コロナウイルスという新興感染症のまん延に際して、行政などからの要請もあり、南東北病院グループはいち早く、今までに経験したことのない大きな課題に立ち向かってきました。

【司会】現在の病院構造では対応が困難なさまざまな課題に直面し、われわれは一つ一つ乗り越えながら、地域医療を支えるという使命が今までも増しているから求められていることを実感しました。その経験からさらなる機能向上を目指す、新病院の建設を決めました。

寺西 県中地域の医療需要は県南地区や会津の一部などを含めた広域です。そのため医療が充足しているとは言いがたく、救急医療はインフラが脆弱(せいじやく)な状態です。地域の医療関係者の中で、地域医療を含めた救急医療をどうするかは長年の課題となっています。さらに新型コロナウイルス感染症のまん延で、医療の逼迫(ひつぱく)は深刻な状況となりました。

【司会】そのような背景のもと、総合南東北病院では、施設老朽化や新興感染症への対応などを踏まえ、新築移転を計画したのですが、医師会の強いバックアップや、郡山市が掲げる「メディカルヒルズ郡山基本構想」との合致により、富田町の旧農業試験場跡地への移転が実現しました。

【司会】新病院の基本コンセプトをお聞かせください。

渡邊 まずは先ほど申し上げた経験からも、感染症対策に対応した病院を目指します。次に、災害や防災医療の充実です。当院は地域災害拠点病院、原子力災害医療協力機関に指定されています。災害時に被災者の避難所として活用できるように検討するとともに、広域な活動として、DMAT(災害派遣医療チーム)や国境なき医師団へのスタッフ派遣にも取り組んでいます。

【司会】県中、県南地域の救急医療の逼迫を踏まえ、2、3次救急の受け入れ態勢を整備します。南東北グループでヘリコプターを導入し、救急患者の迅速な搬送に活用します。また、チーム医療によって、三大疾病(がん、脳卒中、心疾患)に加え、難治性疾患、急性期外傷への対応充実を図ります。近隣の医療機関や教育機関、ふくしま医療機器開発支援センターなどとの連携も強化します。

寺西 私からは一つ目として救急医療体制の強化です。当院は現在、2次救急医療を担っていますが、3次救急患者の受け入れを可能にする設備・体制の構築で、より高度な医療を提供していきます。二つ目は新興感染症への対応です。コロナ禍で私たちは、感染症が社会経済に大きな影響を及ぼすのを目の当たりにしました。状況に応じた病床の導入を可能にする構造や設備の導入、新興感染症を病院にくい止め、社会経済の落ち込みを抑えたいです。三つ目は災害医療です。自然災害が増えている現在、災害医療に強い病院に向けて基盤整備の強化を進めます。

【司会】新病院建設のほかにどのような計画がありますか。

橋本(弘) われわれ江東微生物研究所では、病院のバックアップ機能の拡充を計画しています。検査におけるいち早いデータ報告、新興感染症診断を補助する検査のスピードアップなどに対応したいです。また、将来的にはハビリテーションに関する専門学校のサテライト校の設置を考えています。

【司会】エヌジェイアイでは、病院のコンセプトに基づいた、施設構成を考慮しています。SDGやDX(デジタルトランスフォーメーション)、グリーンエネルギーへの転換を図るGX(エネルギー・リソース)と、グリーンエシジョンといった新たな概念の導入も、少子高齢社会を支える体制をつくりたいです。

【司会】新病院の建設と合わせて重要なのがまちづくりです。「メディカルヒルズ郡山まちづくり協議会」設立の経緯と併せてお話しください。

福井 新病院の設置に伴い、住環境や人の流れ、交通アクセスなどが大きく変わっていくことが予想されます。これに対応するため、住民の声を取り入れながら病院周辺の環境整備を考えようという協議会を発足しました。新病院を中心に「メディカルヒルズ郡山基本構想」がいよいよ形になっていくのを感じています。

渋谷 私は現在の総合南東北病院がある富山町商工会の会長もしていますが、病院

憩いの場を整備し地域に愛される病院・まちづくりへ



渡邊 一夫氏

感染症や災害に強い医療で地域経済に貢献



寺西 寧氏

近隣クリニックとの病診連携も可能に



橋本 充氏

新たな概念で高齢社会を見据えたサービスへ



橋本 弘幸氏

医療体制の充実で安心の暮らしを

【司会】まちづくりにおける新病院の役割や、新病院に対しての意見、要望についてお聞かせください。

福井 近隣の皆さんが安心感を持てるような病院になってほしいです。救急患者の受け入れ態勢が頻りに来たり、ドクターヘリの発着もあつたり、そういう意味で、住民の理解を得るための情報発信も重要です。患者さんにとって利用しやすい病院であること、その積み重ねが病院への信頼につながっていくと思います。

渋谷 病院の機能に加え、コミュニティスペースがあるといいですね。患者さんの利便性を上げるために、行政の窓口や投票所を設けるという点も考慮されています。広い敷地を生かして、地域の人が気軽に集まれるような身近な病院になってほしいです。

河内 富田町第3区には住民が企業するお祭りやイベントがあります。病院の方にもご参加いただき、コミュニケーションをとっていただけるとうれしいです。先日開催に配属が必要で、多少残念なところもあります。駐車場も多いため、移転後の活用も気になるところです。ただ、メディカルヒルズは地域にとって絶対的に必要なもので、専門性の高い病院の設置に期待しています。

【司会】富田町第3区は80世帯、約4000人が住む郡山有数の大きな町内会です。新病院の移転に住民の期待は高まっています。第3区では来年度、住民共助を目的に第2層協議体という組織を社会福祉協議会と一緒に作り、病院と連携できれば心強いと思います。

【司会】地域の皆さんの期待は大きいそうですね。

寺西 新築移転は病院機能を高めるために必須のことで、今の状態をお聞かせください。地域への影響を改めて認識しました。移転先の地域の皆さんのつながりも、もちろん現在の施設についても活用を考えているところです。

渡邊 病院移転後、従来の既存施設は、「ゆりかごから墓場まで」をテーマに、総合福祉センターなどの福祉施設や医療提供施設として総合的に活用していきます。

【司会】新病院建設予定地周辺にJR郡山富田駅があり、将来郡山インター線と交通圏も重要な地域になります。

福井 メディカルヒルズに新病院をはじめ医療機器開発支援センターなど医療関連施設が集まることで、相互の有機な連携が可能となり、医療の新しい技術開発です。医療機器メーカーやスタートアップ企業、研究施設といった医療関連事業者の集積地域になれば、全国にも評価が高まります。一方で、人や車の流れが集中するため、地域住民、特に登下校時の安全面に配慮が必要で、

渋谷 郡山富田駅は、利用者が増えています。今後、今よりもっと増えたいです。今、国道288号も相当混雑すると思われ、渋滞が緊急車両の通行の妨げにもなりかねません。行政と民間が一つになって交通インフラの整備を進めようという考えが求められます。

河内 富田地区は人口が増加しており、富田東小は約1000人の児童がいます。子ども通学環境を守らなくてはいけません。福島の心配もあり、朝夕の混雑に住民は不安を抱えています。緩行線の一つが公共交通機関の活用につながることで、高齢者にとっての健康な移動をサポートし、健康をいかに維持するか、という予防の視点も大切です。私たちは「健康」という考え方で、健康維持を目指し取り組みを展開しています。病院と、産業やサービス、そして人と人が結びつくことが地域の発展につながります。

【司会】まちづくりには地域の支援や協力のほか、行政の支援も重要と言えます。

福井 行政には住環境をはじめ、道路や横断歩道の整備について支援をお願いしています。さらに最大限、住民の安全を考慮した施策を望みます。そして、メディカルヒルズ郡山基本構想をぜひ実現していただきたい。総合南東北病院のBNCT(ホウ素中性子捕捉療法)は世界のトップレベルにあります。郡山にそのような病院があることは大きな財産です。

渋谷 コロナ禍により行政、国民は疲弊し、われわれが商工業者も苦しい時期を過ごしました。そういう中、感染症対応に強い施設が新たに設置されるわけですが、行政の協力は当然のことかと思えます。国・県などの補助金の活用などにより、周辺整備をしっかりと進めていただきたいです。

河内 郡山広域圏17市町村では、過疎化が進み病院が維持できない現状があります。17市町村約65万人の住民が、ここに行けば命が助かるという救急医療体制をつくらなければならない。医療とまちづくりの結びつきによる地域活性化に期待しています。高度な医療技術で海外の患者さんを受け入れ、観光につなげられる可能性もあります。

【司会】これまでのご提案などを受けて、まちづくりと新病院の在り方についてどのようにお考えでしょうか。

寺西 建設的なご意見ありが増えましたが、その後は減り続けた中で思ったことの一つは、医療は産業であるという考えです。当院の患者さんの10%は県外から来ており、その数は今後も増え、人口減少の将来を見据え、広域に展開する必要があると思います。郡山に向けていかなければなりません。広い視野での医療展開、ひいてはそれが郡山全体の活性化につながっていく。医療が社会経済を支えていくと私は考えています。

【司会】新病院は免震構造の建物になります。災害時に病院が機能することの重要性を身をもって学びました。災害時には避難も可能な施設として利用していたらいいと思います。

【司会】世界には向けていますが、地域の皆さんのコミュニケーションも大事です。医療を通して地域に貢献できることがわれわれの喜びです。

渡邊 今日、皆さんの意見やご提言を伺って、新しい病院の新しいまちづくりへの期待の高さを実感しました。繰り返しのようですが、新病院では感染症、災害医療、救急医療への対応を柱としながら、地域の皆さんに愛される病院づくり、まちづくりを全力で取り組めます。

【司会】戦争や自然災害の悪化や円安などの影響で物価や燃料費が高騰し、病院経営は厳しい状況ですが、多くの市民の皆さんにとって病院が必要不可欠な存在であることに変わりありません。新病院になって、さらに大勢の患者さんがいらっしやうと思えます。待ち時間の短縮やストレスなく来院いただけるようハード・ソフト共に整備してまいります。

【司会】今後とも行政も含め、皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。